

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス s o r a		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日		～ 令和7年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容に関しては、ご家族や子供たちに評価してもらえたと感じた。今後も固定化することが無いように毎月のプログラム作成をスタッフ全員で協議しながら決めていきたい	子供たちが楽しく療育に取り組めるよう、職員と毎月プログラムの計画・見直しを行っている。親御さんの気持ちになってさまざまな面に配慮した活動を心掛けている	固定化することが一番の恐怖。親御さんや子供たちの気持ちをうらぎらないように、今後も今までよりさらに内容の詰まった活動の提供を心掛ける
2	ご家族との連携や関係機関との連携は今後も密に行いたい	連絡帳に書かれている事や、送迎時に職員へ話してくれた内容をしっかりとほうこくして、管理者からその日のうちに電話をして問題解決出来るようにしている	今まで通り、ご家族の方との交流やご家庭の困りごとを離してもらえるように関係性の構築に努めたい
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親御さん同士の交流の機会が無い事	ご家庭や子供さんの状況等の意見交換や悩みを離せる機会を設けることはとても大切な事。また、親御さん同士で話することで共感する機会にもなると感じる。ただ、すべてのご家族に参加してもらうことは厳しいと思う	親御さんに参加できるイベントを協議し、次年度には年に数回行いたい。家庭の事情もさまざまなので、年間の計画書を作成した上でアンケートをとりイベントの実施に向けて進めていきたい
2	ハード面に関する部分(建物全体)	玄関の段差や室内も畳なので、車いすの方へのサービスが行き届かない部分もある。	民家を借りて事業を提供している影響で、身体的に支援が必要なお子さんに対して、不安を持たれているご家族があったので、実際の支援の様子を見ていただいたり、必要性があればハード面の補修を行う
3	スタッフ個々の経験の違い	年齢や経験の差がある為、子供たちの日々の観察や気づきに差がある状況がみられている	ご家族の方が、全てのスタッフに安心して些細な相談やご要望が話せるようスタッフの質の向上に努める。(法人内での研修や個別での指導等)

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス s o r a				公表日	年	月	日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個々に応じた活動やその日で変化がある子供たちの様子を送迎時に確認する	静と動をうまく使った活動の提供			
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		ペアを組む際に、子供たちとの相性をしっかり確認する	人数は十分配置されているので、職員一人一人のスキルアップを行う				
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	普通の民家なのでバリアフリーではない。身障の方への対応はベテランスタッフが行い怪我や事故が無いようにしている	現段階での改善は無いが、必要があれば事業所の場所の変更やハード面の補修を行う				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日掃除と安全面の確認を行う。また、日々違う職員が責任者となり最終確認をする。	チェックリスト等も必要性があれば作成する				
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	個室があるが、子供との距離が近いのもあり、開所してから使用される方はいないので、こちらからの声かけ等の支援を行っている	様々な状況で変化する子供たちの様子観察を行い、個別支援が必要と判断する職員の見る目を向上させる				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		スタッフで個々の課題や会議の内容についての共通理解をしたうえで支援を行っている	スタッフによってとらえ方も違うので、簡潔で明確な目標設定をする			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間での共有は行うが、なかなか改善するのが難しい案件もある	意向を全てニーズとして受け取ることは難しい部分もある			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		2カ月に一度全体でのミーティングで職員の意見を聞く機会も設けている	個々のスタッフに対して個別に聞く機会を設けるようにする			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者の評価を行っていない	今後考えていく			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での研修を2カ月に一度行う	継続して行う			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		昨年、会社のホームページを作って内容を明確に公表できる環境を作った	会社全体でプログラムの見直しを行う			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		親御さんと相談員とからの情報共有を行ったうえで個々に応じたアセスメントを作成する	聞き取りや個々のニーズを聞いて作成する			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		直接支援のスタッフに日々問題点や様々な課題を聞いて、明確な課題探しをしたうえで作成する	必要性があれば、現場に直接入って問題定義されている部分を確認する			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の活動の中で、計画に沿ってここに合った声かけや対応をするようにスタッフに促している	日々変化する子供たちの状況をみながらその日その日での確かな支援が出来るよう情報共有の徹底の指示			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	ツールを用いた確認は出来ない				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		今年度に関しては、スタッフに法改正による項目や内容の周知や説明を行い、計画作成に必要な支援内容を共有するのが精一杯であった	新年度からは法改正して2年目になるので職員全員が内容等を理解したうえで支援に望み、子供たち一人一人に対してしっかりとした目標設定を再度共通認識したい			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全てのスタッフが携われる環境作りを行い、最終的な確認を責任者が行っている	新しい意見を大切にしながらおもしろみのあるプログラム作成も今後は必要だと感じる			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		上記にもあるように、固定化や枯渇しないように、全スタッフで確認まで行っている				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個々の苦手分野等を把握し、親御さんからの情報も取り入れたうえで必要に応じた活動内容の変更は行えている	嫌が言える環境作りを今年は力を入れたい
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	必ず前日と当日の状況を事業所全体で共有している。必要に応じて、スタッフの配置の変更も行っている	職員の感覚で声かけや見守りをするのではなく、個々のその日の状態や状況を見ながら各スタッフが出来るように教育する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	その日には出ていない。共有ツールでの共有のみ行っている	夕方の送迎後は時間がギリギリなため、厳しい部分がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	記録の徹底はしているが、職員の見方や受け取り方で違いがある為、日々職員への意識づけは行っている	職員一人一人の意識の改善や法人内での研修の徹底
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	現場の責任者を中心に個々のモニタリングは行えている	親御さんや相談員さんの意見も聞きながらここに沿った見直しが出来よう密な確認が行えるようにしたい
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	職員へも周知しながら支援に望んでいるが、共通理解できるように日々確認を行っている	ガイドラインの中身の理解や認識する為に、今後も全体での研修やミーティングをまめに取り入れる
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	活動内容やちょっとした決定事項をここに判断してもらう機会を活動の中に設けている	選択が苦手な方へは、こちらから誘導にならないように声かけ等の支援を行う
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	必ず児発管が出席し、前日までに当事者の近況の確認を現場スタッフから聞き取りする	親御さんや他事業所の方々と意見交換や情報共有する機会なので、ちゃんとした情報を伝えられるように事前準備をする
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関との情報の共有は行っている。個々に応じた事業所との交流を定期的に行っている	関係機関との連絡を密に取り合える関係づくりも大切である
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校からの情報提供は市の方針なのか、全く出来ない。必要な際には相談員を入れなければ門前払いされる。家族から情報はもらえている	今後も家族と密な連携を図り、学校の状況をお聞きできればと思う
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	事例が無い為行っていない	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	事例が無い為行っていない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	事例が無い為行っていない	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	児童館は定期的に利用している	今後も継続して利用していく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会への参加はしていない	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	定期的に保護者の方と直接会ってや電話で子供さんの状況やご自宅での困りごとの確認を行っている	親御さんとの密な連携が取れるように、今後も関係性の構築に努める
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	家族参加型の研修は現時点では実施していないが、交互の情報提供は行えている	家族の方が参加できるような研修や集会の機会を設けられるよう今後計画・立案したい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に必ず保護者さんへ説明を行い、同意の上で契約している	今後も個人負担金や事業所で必要な費用に関してはしっかりと説明を行っていく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	担当者会議の中で出た本人とご家族のニーズ、相談員が立てたサービス等利用計画をもとに、事業所で協議して計画している	担当者会議でしっかりとご本にとご家族のニーズを聞いて、その場で確認していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	全ての項目を一つずつ、こちらの支援方法を伝えながら説明している	継続して行う
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	ご家族のお悩みがあれば、管理者の方でお電話で対応し、必要性があれば事業所やご自宅で直接お話をしている	ご家族が相談しやすい関係性作りを今後も心掛けたい

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	現在ご家族で集まる機会が作れていない	次年度は実施できるよう、事業所とご家族間で計画したい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	契約時にご家族に苦情や相談に関しての説明を行う事で、何かあった際の連絡等がしやすい環境を準備している	今後も継続的にご家族からのご相談や苦情に親身に対応できるよう、ご家族との関係性の構築に努める
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	最低でも週に2回ほどSNSで活動の状況や子供さんの表情の発信をおこなっている。また、定期的にホームページの更新で情報も発信している	継続して活動内容や子供たちの様子を定期的に情報発信していけるよう通信機器や設備も改善していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	スタッフに関しては雇用の際にも個人情報の漏洩に関する誓約書を結んでいる。個人情報の管理も鍵のかかる棚で管理している	十分に配慮している
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	意思疎通や決定が困難な場合はご家族に説明を行い確認している	ご本人やご家族に不信感を与えないように、今後も十分配慮行う
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域の方々を招待はしたことがないが、他事業所と合同でレクリエーション大会は年に1度実施している	毎年出来るよう関係を続けたい。地域の方々を招待してのイベントは次年度より出来るよう計画したい
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルに関しては策定して、事業所に掲示している	今回の自己評価でご家族への周知が完全ではないことが分かったので、再度ご家族への周知を徹底する
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	月に一度さまざまな災害を想定した訓練を継続的に実施している	次年度からは直接消防に行つての勉強会を定期的に行う（4月1日に訓練を受ける手続きを消防へ届済み）
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	最初の契約後に、ご家族に看護情報と緊急時の対応に関する書類を記入していただいている	看護師を中心に緊急時の対応に関する確認を今後も徹底する
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	上記内容と同様で、利用の前にすべてのアレルギーに関する確認を口頭と書面で確認している	命に係わる案件と認識しているので、抜けのないように看護師と管理者で十分な確認を今後も必ず行う
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全面に関する研修は法人全体で定期的に行い、スタッフ全員に周知している	日々変わる環境の中で、臨機応変な対応が出来るよう、継続的な研修を行う
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	緊急時の連絡について契約の際にご家族へお伝えし、連絡が必ずできるよう最初に確認を密に行っている	ご家族との、緊急時の連携に関するお話が出来る環境づくりを今後は定期的に行う
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	スタッフへヒヤリハットを書く意味を最初に話している。些細な事でも気づいて再発防止に繋げられるよう職員全体で共有している	書くことが悪いと感じる職員もいるが、ヒヤリハットだと気づいたことが素晴らしいことだと職員には伝えている。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	法人全体での研修で虐待防止の研修や、県で実施されている研修への参加	県の研修に参加してくれた職員には法人での職場内研修を実施し振り返りをする事と、他の職員へもタイムリーな情報を提供している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	契約時の重要事項説明書や契約書に明記し、全ての親御さんへ最初に説明したうえで契約している	親御さんへの説明の徹底	